

令和2年度第3回常務理事会議事録

日時： 令和2年11月6日（金）15:00～17:20

会場： 東京コンベンションホール中会議室II-BC（ハイブリッドで開催）

理事長：木村 正

副理事長：青木 大輔、加藤 聖子

常務理事：池田 智明、大須賀 穰、岡本 愛光、工藤 美樹、関沢 明彦、万代 昌紀、
三上 幹男、八重樫 伸生

監事：櫻木 範明、平松 祐司、藤井 知行

特任理事：海野 信也、宮城 悦子

顧問：小西 郁生、吉村 泰典

理事会内委員会委員長：榎本 隆之、小林 陽一、杉野 法広、生水 真紀夫、竹下 俊行、
永瀬 智、渡利 英道

総会議長：光田 信明

総会副議長：久具 宏司、小谷 友美

幹事長：阪埜 浩司

副幹事長：矢内原 臨

幹事：岩佐 武、岩瀬 春子、上田 豊、馬詰 武、木村 文則、桑原 慶充、小出 馨子、
古宇 家正、小松 宏彰、近藤 英治、関根 正幸、田中 博明、寺尾 泰久、
土井 宏太郎、徳永 英樹、永松 健、矢幡 秀昭、山上 亘

事務局：吉田 隆人、加藤 大輔、青野 秀雄

15:00 理事長、副理事長、常務理事の全員が出席し、定足数に達しているため、木村正理事長が開会を宣言した。議事録署名人には、理事長、監事の計4名を選任し、これを承認した。続いて、令和2年10月9日に開催された令和2年度第2回常務理事会議事録を承認した。

I. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

1) 総務（青木大輔副理事長）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

①中野仁雄 名誉会員（福岡）が10月20日にご逝去された。

(2) 来年度の代議員選任依頼について

10月31日時点の会費納入者数が確定したことにより、都道府県毎の代議員定数を決定し、各地方学会に1月31日までに代議員選任を行うよう依頼したい。 [資料：総務1]

青木大輔副理事長「役員および代議員選任規程に則り、比例人員を必要に応じて変更して代議員総数を定款に決められている370名を上限に決定するが、今回は都市部に偏らないように、比例人員44名、端数25名以上として総数368名にする案としたい。ただ今回は、従来よりも大きな変更になっているので、通信理事会を開催して承認を得るようにしたい。」

今回の定数案を通信理事会に諮り承認を得ることについて、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

①会議開催

子宮内膜症取扱い規約改訂（第3版）第6回編集委員会 （第4回編集幹事会 Web 開催）	10月27日
--	--------

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①手術担当医師の異動に伴う資格辞退の申し出があった3施設について、子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘出術登録施設より削除する。 [資料：総務2]
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

②令和元年度第4回理事会（2020年3月7日）に承認いただいたFIGO2018改訂に伴う日本語訳（案）の最終案について [資料：総務3]
八重樫伸生委員長「細かいところだが、進行期分類第IV期の記述順序の変更を行いたい。」
久具宏司副議長「第IV期の表題も膀胱粘膜または直腸粘膜というようにして記述を揃えた方がよい。」
八重樫伸生委員長「そのようにしたい。」
記述の変更・修正について特に異議はなく、全会一致で承認された。

③FIGO2018における進行期分類の改訂では、画像所見とともに手術後の病理学的所見を加えて総合的に判断することとなった。従って、従来用いられてきた「臨床進行期分類」に代えて、「進行期分類」を共通の用語として使用したい。 [資料：総務4]
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(ハ) 周産期委員会

①厚生労働科学特別研究事業および日本産科婦人科学会（周産期委員会）が実施の「日本における新型コロナウイルス感染妊婦の実態把握のための多施設共同レジストリ研究」の協力依頼を本会ホームページに掲載し、日本産婦人科医会にもホームページ掲載を依頼した。 [資料：総務5-1, 5-2]

②「新型コロナウイルス感染症蔓延による分娩数減少の緊急調査」結果について [資料：総務5-3]
池田智明委員長「昨年10月～本年3月の月別分娩数と本年10月～来年3月の月別分娩予約数の比較を都道府県別に行ったものである。」

平松祐司監事「分娩数の減少理由を分析し、市民公開講座やBabyプラスなどを通して学会として必要なメッセージを発信してはどうか。」

木村正理事長「注意深く情報を確認して発信を行い、周産期委員会とも相談して国民が妊娠・出産を安心してできるようなメッセージを出していきたい。」

③日本リウマチ学会より依頼のあった「自己免疫疾患合併妊婦妊娠、出産にあたって生物製剤（抗体製剤）の補助」の本会との連名による要望書提出について [資料：総務6]
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

④厚生労働省健康局健康課の「コロナに係る予防接種基本方針部会」が11月4日に開催され、池田智明委員長が出席した。それに関連して学会の意見をまとめてほしいとの依頼があり、新型コロナウイルスに関するワクチン接種に関する適応・適応理由を含めて、周産期委員会で検討した。 [資料：総務6-1, 6-2]

池田智明委員長「予防接種基本方針部会では、妊婦の接種順位への位置付けがテーマになるので、周産期委員会で検討している。資料6-2は検討中の案であり、最終版を今月末に提出予定である。」

(二)女性ヘルスケア委員会

①書籍頒布状況（10月31日現在）

	10/9 常務理事会報告	～10月31日	合計
低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲステン配合薬ガイドライン 2015 書籍版	6,480	31	6,511
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版	3,546	20	3,566
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版 +電子版用 ID・PW 付	1,193	23	1,216
女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針	1,060	10	1,070

青木大輔副理事長「専門委員会については来月、専門委員会運営会議を開催して次期の専門委員会の活動について検討する。現委員長と次期委員長に参加いただいて小委員会の構成などを協議するが、次々期委員長にもお声がけして議論に加わっていただきたいと思う。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4)事務局職員採用について

事務局職員として、坂巻安見子さんを11月1日付けで採用した。編集、教育委員会、ガイドライン委員会の担当者として、来年6月5日定年退職予定である増野さんからの引継ぎを開始している。

〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1)厚生労働省からの会員への周知依頼について

①本会ホームページに掲載済

部署	内容	資料
子ども家庭局母子保健課	令和2年台風第14号による災害による被災者に係る妊婦康診査等の各種母子保健サービスの取扱いについて	総務7-1
子ども家庭局母子保健課	災害時の母子保健対策に関するマニュアル等について	総務7-2
子ども家庭局母子保健課	妊産婦及び乳幼児等に対する支援のポイントについて	総務7-3
子ども家庭局母子保健課	「母体保護法の施行について」の一部改正について	総務7-4
子ども家庭局母子保健課	令和2年度乳幼児突然死症候群（SIDS）対策強化月間の実施について	総務7-5

(2)厚生労働省子ども家庭局母子保健課から、「新型コロナウイルス感染症 診療の手引き」の作成にあたり、陽性妊産婦の院内感染対策についての記載をしたいとのことで、本会から早川智先生（日本大学）を推薦してほしいとの連絡があり、本会として応諾した。 [資料：総務8]

(3)福島県・福島県立医科大学

福島県立医科大学、福島県産婦人科医会および福島県産科婦人科学会から、福島県の妊産婦に対する「令和2年度県民健康調査」の実施にあたっての協力依頼を受領した。例年同様、本会ホームページに掲載して会員に周知したい。 [資料：総務9]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会、日本医学会連合

①本会ホームページに掲載し、会員に周知した

部署	内容	資料
厚生労働省健康局健康課	ヒトパピローマウイルス感染症に係る定期接種の対象者等への周知について	総務 10-1

②本会ホームページに掲載し、会員に周知したい

部署	内容	資料
医薬品医療機器総合機構	新型コロナウイルスワクチン戦略相談（無料）の新設について	総務 11-1
厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課	ゲル充填人工乳房及び皮膚拡張器植込み患者等に対する情報提供について	総務 11-2
厚生労働省医薬・生活衛生局医療機器審査管理課	疾病の兆候を検出し受診を促す家庭用医療機器の承認申請に当たって留意すべき事項について	総務 11-3
厚生労働省医薬・生活衛生局医療機器審査管理課	チサゲンレクルユーセルの最適使用推進ガイドラインの一部改正について	総務 11-4

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

③日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会から、オンライン診療に関する検討会議 実務担当委員の推薦依頼があり、本会から加藤聖子先生を推薦した。 [資料：総務 12]

(2) 日本家族計画協会

日本家族計画協会から、機関月刊誌の「家族と健康」の800号記念誌への名義掲載依頼を受領した。経済的負担もなく、これを応諾した。 [資料：総務 13]

(3) 日本甲状腺学会

日本甲状腺学会より、「潜在的甲状腺機能異常ガイドライン」の作成に当たり、本会から作成委員を2名推薦してほしいとの依頼を受領した。生殖内分泌委員会、周産期委員会でそれぞれ検討した結果、岩瀬明先生（群馬大学）、杉山隆先生（愛媛大学）を推薦することとしたい。 [資料：総務 14]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 国立成育医療研究センター

同センターの周産期・母性診療センター母性内科より、プレコンセプションケア日米合同カンファレンス「第6回プレコンセプションケア・オープンセミナー」への後援名義使用申請を受領した。 [資料：総務 15]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 日本循環器学会

日本循環器学会から、同学会の「先天性心疾患の移行医療に関する横断的検討会」委員を、現在の委員である、国立循環器病研究センターの吉松淳先生に引き続きお願いしたいとの依頼があった。吉松淳先生に確認の上、本会として応諾した。 [資料：総務 16]

(7) 日本助産師会

日本助産師会より、「助産師の声明/コア・コンピテンシー」改定に向けてデルファイ調査への協力依頼を受領した。Web での意見聴取への協力者を本会より 1 名推薦してほしいとの依頼である。 [資料：総務 17]

木村正理事長「周産期委員会から推薦していただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(8) 日本学術会議

日本学術会議から、内閣総理大臣への会長就任挨拶報告、および日本学術会議の活動と運営に関する記者会見の報告を受領した。 [資料：総務 17-1]

(9) 日本医学放射線学会

日本医学放射線学会から、同学会が作成する「画像診断ガイドライン」の外部委員の推薦依頼を受領した。 [資料：総務 17-2]

青木大輔副理事長「本件は木村正理事長に一任したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

[IV. その他]

(1) 公益財団法人ジョイセフ

公益財団法人ジョイセフより、国際女性デー・チャリティランイベント「WHITE RIBBON RUN 2021」への後援名義使用許可申請を受領した。 [資料：総務 18]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 富士フィルム富山化学株式会社

富士フィルム富山化学株式会社より、「アビガン」の適正使用の推進と、もし妊婦が服用した場合の本会会員の協力についての会員周知依頼を受領した。 [資料：総務 19]

青木大輔副理事長「どのように周知するのがよいか難しいが、ホームページへの掲載を考えたい。」

木村正理事長「この周知文書は長いので、少しまとめる必要がある。」

藤井知行監事「産婦人科に来たら何をすればよいかについては何も言っていない。」

工藤美樹理事「『アビガン錠処方登録医にはすぐに相談できる産婦人科施設を確認いただいています』とあるが、これは既に進んでいることなのか。」

青木大輔副理事長「それが条件になっており、これからそうなるということである。富士フィルム富山化学側の問合せ窓口を記載するなどを含めて、先方と相談して修正を依頼したい。その上でのホームページ掲載については、運営委員会にご一任いただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 富士製薬工業

富士製薬工業から、「プロゲストンデポー筋注 125mg」「プロゲステロン筋注 25mg、50mg」を販売中止としたいが、それについて本会の了解がいただきたいとの連絡があった。 [資料：総務 20] 木村正理事長「無くなると困るものもあるが、先方はどうしようもない、との反応だった。溶液の濁度について日本の基準に合ったものが作れないということである。」

池田智明委員長「厚生労働省サイドにあたってみることも含めて、周産期委員会で依頼書を作成して次の理事会にお諮りしたい。」

2) 会 計 (池田智明理事)

池田智明理事「本年度の仮決算を作成してもらった。新型コロナウイルスの影響で会議費交通費が減少しており、来年度予算をどうするかについて、会計で検討して次の理事会でご相談したい。」

3) 学 術 (大須賀穰理事)

(1) 会議開催

令和2年度健康・医療活動賞 第1回予備選考委員会	10月19日(月)
学術集会のあり方ワーキンググループ第2回会議	11月4日(水)
令和2年度健康・医療活動賞 第2回予備選考委員会	11月6日(金)
令和2年度第3回学術担当理事会	12月11日(金)【予定】
令和2年度第3回学術委員会	12月11日(金)【予定】

(2) 令和2年度学術奨励賞候補者の推薦及び応募状況 (10月31日締切)

生殖医学部門2名、周産期医学部門2名、婦人科腫瘍学部門2名、合計6名の推薦ならびに応募があった。

(3) 令和2年度教育奨励賞の推薦及び応募状況 (10月31日締切)

10名の推薦ならびに応募があった。

(4) 健康・医療活動賞の応募および予備選考の状況

9月30日を締め切りとして18件(個人4、団体14)の応募があり、10月19日に第1回予備選考委員会が行われた。11月6日に予定されている第2回予備選考委員会で候補の3件が決定され、12月11日の学術委員会でプレゼンテーションが行われて受賞候補1件が決定される予定である。

(5) Web開催を含めた学術集会のあり方ワーキンググループの議論の状況について

学術集会におけるWeb配信を取り込んだ新たな開催形式を見据えた、運営要綱の見直しを進めている。10月9日に第1回の話し合いが行われ、今後11月4日に第2回ワーキンググループを開催して修正案を12月の理事会で提示する予定である。

大須賀穰理事「大まかには、3日間の開催およびWeb併用開催についての運営要綱の検討である。」

(6) 第73回学術講演会の準備進捗について

関根正幸第73回学術集会プログラム委員長「応募登録のあった演題の査読を行っている。日本語演題

は1,607演題の応募があった。開催方法については、収支見積りを出してもらって検討している。」

藤井知行監事「学術講演会が終わっても専門医のポイントが取れるように検討できないか。」

青木大輔副理事長「第72回学術講演会では、ポイントを付けたのは学術集会終了後1週間程度だった。

これは4月中であれば例外的に前年度の研修に組み入れることができることを反映させたためである。ただ、今後は4月5月の学術講演会でのポイントを前年度に組み入れることは止めた方がよいのではないか。」

八重樫伸生理事「この件は影響も大きいので、中央専門医制度委員会で検討させていただきたい。」

4) 編集 (加藤聖子副理事長)

(1) 会議開催

2020年度第3回和文誌編集会議/第3回 JOGR 編集会議	11月6日(金)
2020年度第3回編集担当理事会	12月11日(金) 予定

(2) JOGR 投稿状況 2020年10月31日現在

	2018	2019	2020
Pending / Withdrawn	38	28	502
Accepted	304	279	212
Rejected	1214	1198	1359
Grand Total	1556	1505	2073

(3) 和文機関誌同梱依頼

[資料：編集1]

株式会社カイトーより和文機関誌12月号との同梱依頼があった。

(4) JOGR AE 増員について

[資料：編集2]

JOGR 投稿数の増加に伴い、AEの負担が増加したので、AEの増員を図った。
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

藤井知行監事「Editor in Chief の負担軽減についてはどうなっているのか。」

加藤聖子副理事長「もう少し時間をいただきたい。」

5) 渉外 (岡本愛光理事)

(1) 会議開催

第2回日本産科婦人科学会渉外委員会 (Web)	12月10日【予定】
第73回日産婦学会学術講演会 海外ゲスト関係打ち合わせ (Web)	12月10日【予定】

(2) 日独 Exchange Program について、新型コロナウイルス感染拡大により、各施設にて外国人医師を研修の為に受け入れることが困難と予想されることから、2021年の第73回学術講演会にて実施を予定していた Exchange Program を、2022年の第74回学術講演会に延期することとなった。

(3) 11月5、6日にWeb開催されたFIGO Council meetingに、本会より岡本愛光渉外担当理事が出席した。

岡本愛光理事「Council meetingでは、FIGO大会を3年ごとから2年ごとにする提案が突然出され、投票が行われた。財源の安定化や多くの国で開催することによるプレゼンスの拡大などが提案の理由である。本会としては賛成した。」

藤井知行監事「役員も任期2年ということになるのか。」

岡本愛光理事「そうである。」

(4) FIGO Presidentを装い、木村理事長へ(CC:事務局渉外委員会担当、事務局アドレス)FIGO WEBINAR開催の為の送金代行を依頼するメールを受信した。これをFIGO Chief Executiveに報告し、FIGOから加盟学会へメール送信する際は、レターヘッドを使用するか、ロゴマークを挿入するよう依頼した。

(5) 11月14日開催のAFOG Webinar “COVID-19 and Fertility Care”の出席者に学会単位を付与する旨、本会websiteに掲載した。 [資料: 渉外1]

(6) FIGO/CHIEN-TIEN HSU FELLOWSHIP IN GYNAECOLOGIC ONCOLOGYについて [資料: 渉外2]
岡本愛光理事「来年1月末が応募期限で、本会のホームページにも案内が掲載されている。」

6) 社 保 (万代昌紀理事)

(1) 会議開催

第2回令和4年度診療報酬改定に関する産婦人科関連学会打ち合わせ (Web)	11月11日【予定】
第2回日本産科婦人科学会社会保険委員会 (Web)	11月13日【予定】

万代昌紀理事「内保連、外保連の締切が近づいており、要望項目を固定する時期になってきた。11日に産婦人科領域の横断的社保委員長打合せを行い、どの項目をどの学会が提案するか、共同提案をどう進めるかなどの役割分担を協議する。また腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術については、厚生労働省との対話が始まったところである。今年の要望項目について、日本生殖医学会から出ている不妊症の指導管理料を本会から出してもよいと考えている。それに関連して不育症の管理料も出せないかと考えているが、これ以外についてもご意見があればお寄せいただきたい。」

(2) 日本放射線腫瘍学会より、婦人科がん密封小線源治療に関連した診療報酬の見直しについて共同提案の依頼を受け、これを承諾した。 [資料: 社保1]

(3) 「器質性月経困難症に対する適正なホルモン療法等に係る研修」のe-learningについて (10月23日現在の申込人数 6,269名、修了人数 6,098名)

(4) 日本医師会疑義解釈委員会より、経過措置予定品目(02 疑 0535)についての確認依頼、および医薬品の供給停止予定品目(02 疑 0534)の検討依頼を受領し、本会理事および社保委員による検討結果を回答した。

(5) 外保連試案改訂（外保連試案 2022）に向けて、社保委員の所属施設において手術、および検査の医療材料見直しの作業を開始した。

(6) 医薬品の適応外使用に係る保険診療上の取り扱いに関する情報の会員への周知について

[資料：社保2]

万代昌紀理事「これをホームページに掲載したい。また医薬品の適応外使用に係る保険診療上の取り扱いに関する情報については、今後、社保委員会の裁量でホームページ掲載することをお認めいただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

平松祐司監事「今回の資料のインシュリンの部分で日本糖尿病妊娠学会の会員に周知してもよいか。」

木村正理事長「それは問題ない。」

(7) 「医薬品の適応外使用事例」申請について

[資料：社保3]

万代昌紀理事「子宮内膜間質肉腫について、レトロゾールと黄体ホルモンを認めてほしいとの申請を提出したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

万代昌紀理事「オンライン診療について、日本医学会連合の検討会が動いているようだが、内保連にも遠隔診療に関する委員会が立ち上がっており、北海道大学の馬詰武先生に参加いただいている。情報共有しながら進めさせていただきたい。」

7) 専門医制度（八重樫伸生理事）

(1) 会議開催

第3回中央専門医制度委員会

10月10日

(2) 2020年度専門医認定二次審査結果、専門医資格更新・再認定・更新猶予申請審査結果、指導医認定・更新審査結果

① 専門医認定二次審査

申請者：444名

受験者：筆記試験：443名、面接試験：444名

合格者：386名、不合格者58名

- ・最終的な合格率は86.90%となった。合格者については既に本会ホームページに掲載し、機関誌72巻11号に掲載する予定である。

[資料：専門医1]

② 専門医資格更新審査

更新申請は1,777名で、合格は1,777名、不合格0名であった。

[資料：専門医2]

③ 専門医資格再認定審査

- ・再認定申請は14名で、合格は14名、不合格は0名であった。

- ・新規申請者・更新申請者・再認定申請者ともに、申請者宛に審査結果を通知し、新規申請合格者は専門医登録が済み次第、認定証を送付する。更新申請合格者・再認定申請合格者は地方委員会宛に10月1日付の認定証を送付する予定である。 [資料：専門医3]

④専門医資格更新猶予申請審査

専門医資格更新猶予申請は6名あり、猶予可は5名、猶予不可は1名であった。 [資料：専門医2]

⑤指導医認定審査

- ・申請は340名で、合格は326名、不合格14名であった。
- ・申請者宛に審査結果を通知し、合格者は地方委員会宛に10月1日付の認定証を送付する予定である。 [資料：専門医4]

⑥指導医更新審査

- ・申請は1,480名で、合格は1,393名、暫定更新（論文のみの不足、1年間の更新猶予）は54名、不合格33名であった。
- ・申請者宛に審査結果を通知し、合格者は地方委員会宛に8月1日付の認定証を送付する予定である。 [資料：専門医5]

(3)2020年度専門医認定二次審査 各都道府県開催 事後アンケート調査結果について

[資料：専門医6]

八重樫伸生理事「二次審査について、来年度も都道府県単位の開催としても対応不可ということはないというのが結論になる。この結果を見てご意見をいただければと思う。」

(4)2021年度専門医認定二次審査は、大阪会場（千里ライフサイエンスセンター）が確保できた2021年8月28日、29日に日程を変更する。

(5)会員資格停止者の専門医資格の扱いについて [資料：専門医7-1～7-9]
今回の対象会員についての対応、および今後の対応ルールについて、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6)e-learning 課金決済売り上げについて

2017年10月から2020年9月で合計24,751,700円（4,542本×5,000円（税別））である。

(7)日本専門医機構

①会議開催

第4回産婦人科サブスペシャリティ学会専門医の機構認定に関するの打ち合わせ	10月10日
--------------------------------------	--------

[資料：専門医8-1～8-4]

八重樫伸生理事「産婦人科サブスペシャリティ領域連絡協議会の規約を作成し、構成員を決定した。」

②専門研修プログラム整備基準の改訂について

連携施設の診療実績の施設要件として、「婦人科悪性腫瘍（浸潤がんのみ）の診療実数 年間30件以上」を「婦人科悪性腫瘍（浸潤がんのみ）の初回治療件数 年間15件以上」（婦人科腫瘍委員会登録と同じ数え方）に変更した。 [資料：専門医9]

③研修カリキュラム制整備基準について [資料: 専門医 10]
 八重樫伸生理事「カリキュラム制の場合、週 8 時間未満は研修期間の単位認定をしないということを追加した。」

④暫定期間後に特定の理由のために機構専門医更新ができない場合の本会の規定について
 暫定期間後に特定の理由のために機構専門医更新ができない際に、専門医としての定期的な診療活動が不可能でも自己学習などが継続できる場合、会員専用ページ(e 医学会マイページ)の test 付き e-learning を 4 コンテンツ受け、おのおの 80%以上の正解を合格とし、4 コンテンツとも合格する必要がある。それぞれクレジット決済を経る必要がある (1 つの動画につき 5,000 円 (税別))。 [資料: 専門医 11-1~11-3]

⑤2021 年度に研修を開始する専攻医の日本専門医機構「専攻医登録システム」の登録を開始した (専攻医一次募集 2020 年 11 月 4 日 12 時 ~ 11 月 16 日 12 時まで)。 [資料: 専門医 12]

⑥厚生労働省医政局医事課からの専門研修プログラムについての照会と回答について [資料: 専門医 13-1、13-2]
 八重樫伸生理事「毎年送られてくる照会であり、資料 13-2 のように回答した。」

8) 倫理委員会 (三上幹男理事)

(1) 会議開催

令和 2 年度第 3 回着床前診断に関する審査小委員会 (Web 会議)	10 月 13 日
PGT-M に関する倫理審議会 (第 2 部)	11 月 1 日
令和 2 年度第 3 回倫理委員会 (Web 会議)	11 月 10 日【予定】
PGT-A に関する小委員会	11 月 13 日【予定】

(2) 本会の見解に基づく諸登録 (令和 2 年 9 月 30 日)

- ・ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録: 103 研究
- ・体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録: 620 施設
- ・ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録: 620 施設
- ・顕微授精に関する登録: 589 施設
- ・医学的適応による未受精卵、胚(受精卵)および卵巣組織の凍結・保存に関する登録: 133 施設
- ・提供精子を用いた人工授精に関する登録: 12 施設

(3) 着床前診断に関する申請・認可について

- ・施設申請 175 件《承認 146 施設 (うち 24 施設は条件付)、照会 14 施設、審査中 15 施設》

- ・症例申請: 961 例《承認 822 例、非承認 31 例、審査対象外 35 例、取り下げ 5 例、照会 63 例、保留 2 例、審査中 3 件》(承認 822 例のうち 120 例は条件付)

(4) 「臨床研究審査小委員会」報告事項

- ①埼玉医科大学病院産科・婦人科 田丸俊輔会員より日本産科婦人科学会周産期登録データベース

使用申請として承認された、「本邦における児の早発型 GBS 感染症を減らすために最適な母体の膣入口部・肛門内の細菌培養検査時期に関する検討」について審査を行い、9月17日に審査結果を報告した。 [資料：倫理1]

②徳島大学医歯薬研究部 苛原稔会員より、既に承認済みの研究で計画の変更申請があった、「反復体外受精・胚移植 (ART) 不成功例、習慣流産例 (反復流産を含む)、染色体構造異常例を対象とした着床前胚染色体異数性検査 (PGT-A) の有用性に関する多施設共同研究」について審査を行い、10月14日に審査結果を報告した。 [資料：倫理2]

③順天堂大学医学部産婦人科学講座 竹田省会員より、既に承認済みの研究で計画の変更申請があった、「Accuracy of clinical characteristics, biochemical and ultrasound markers in the prediction of pre-eclampsia; an Individual Participant Data (IPD) meta-analysis」について審査を行い、10月15日に審査結果を報告した。 [資料：倫理3]

④日本における新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) 感染妊婦の実態把握のための多施設共同レジストリ研究 (実施責任者：山田 秀人 神戸大学大学院医学研究科外科系講座産科婦人科学分野) について、研究計画変更の申請を出すように依頼を送った。 [資料：倫理4]

(5) 11月1日に開催された「PGT-M 倫理審議会 (第2部)」について [資料：倫理5]

三上幹男理事「現地参加8名、Web参加25名、Web視聴250名程度であった。審議会では、本会がなにを行うかについて議論をしたが、現在、Q&Aを作成し委員、関連学会、患者会や関連団体に送って、第3部の準備を進めている。本会の倫理委員会は、その名称から考えてその役割について、外部からの誤解を生みやすいので今後検討していきたい。着床前診断の流れ、審査の流れについては、理事の先生方からもご意見をいただきたいと考えている。」

木村正理事長「本会の倫理委員会は、臨床研究の倫理委員会とは役割が異なるが、理事の先生方に現状の認識を伺い、共通認識を持ちたいということである。」

大須賀穰理事「臨床倫理委員会について、先生方に共通の認識はあるのだろうか。」

三上幹男理事「臨床倫理委員会は、そのメンバー構成などきちんと倫理指針や規程などで決まっているものではない。これは臨床研究の審査を行う倫理委員会ではなくて臨床倫理委員会であり、たとえば倫理的事項をはらむ臨床手技などについてその施設で行ってよいかを検討する場であるが、委員構成などは施設に任されている。理事の先生方の組織には臨床倫理委員会があるのかについてもお尋ねしたい。このあと第3部は患者の方、PGT-Mを受けた方、希望した方、一般の方、関連学会・関連団体の方々からの発言をいただこうと考えている。ホームページから意見を提出できるようにして、記録をきちんと残すようにしたいので、広報委員会のご協力をお願いしたい。」

工藤美樹理事「承知した。」

小西郁生顧問「学会の小委員会は科学的な面を担当し、各施設の倫理委員会が患者さんの立場を勘案して最終決定するという、今回検討している PGT-M の流れについて、理事会の先生方は理解されているのだろうか。」

三上幹男理事「理解していただくためには、サーベイに QA 集やスライド集があるので、それを読んでいただくと考え方がわかると思う。」

小西郁生顧問「理事会の場で三上先生から説明いただき、内部できちんと議論しておく必要があるように思う。理事会メンバーで認識を共有しておくことは重要である。」

木村正理事長「サーベイを事前に送付しておいて、理事会での説明をお願いしたい。」

(6) 厚生労働省 NIPT 等の出生前検査に関する専門委員会について [資料：倫理 6]
三上幹男理事「第 1 回委員会では、今回の指針改訂の経緯を説明し、日本小児科学会、日本人類遺伝学会からも応援いただけるということ話を話した。改定指針については、委員ほぼ全員から受け入れられたようであり、内容についての批判的な意見はなかった。無認定施設に対して厚生労働省は何か対応できないのかという意見も出た。これに関して NIPT 受検者約 900 名への調査の中間報告を出して NIPT 受検者の半数が無認定施設で受検していることを示した。無認定施設がそれほどあつて厚生労働省で対処ができないならば、ファーストタッチを産婦人科に任せてはという意見もあつた。」

(7) 日本生殖医学会倫理委員会報告 「提供配偶子を用いる生殖医療についての提言」の改訂
三上幹男理事「提供配偶子を用いる生殖医療に関する検討委員会で検討いただく。」

9) 教 育 (関沢明彦理事)

(1) 書籍頒布状況報告 2020 年 10 月 31 日現在

	10/9 常務理事会報告	～10 月 4 日	合計
産婦人科研修の必修知識 2016-2018	1, 137	23	1, 160
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き	717	0	717
産婦人科研修の必修知識 2016-2018+例題と解説集	675	1	676
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き+例題と解説集	804	0	804
うち必修知識ダウンロード	1, 249	25	1, 249
用語集・用語解説集改訂第 4 版 (書籍版)	733	2	733
用語集・用語解説集改訂第 4 版 (電子版付)	910	33	910
うちダウンロード済み	523	12	535
専門医試験例題と解説 2016	1, 379	1	1, 380
専門医試験例題と解説 2017	834	6	840
専門医試験例題と解説 2018	1, 410	9	1, 419
専門医試験例題と解説 2019	1, 250	10	1, 260
専門医試験例題と解説 2020	595	24	619

10) 地方連絡委員会 (渡利英道委員長) 特になし

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広 報 (工藤美樹理事)

(1) JOB-NET 公募情報について

JOB-NET 事業報告

[資料：広報 1]

(2) ホームページについて

① ホームページアクセス状況について

[資料：広報 2]

(3) HUMAN+/Baby プラスに関する小委員会について

① HUMAN+の冊子販売は、10月の月間販売数105冊、累計185,520冊（10月末時点）であった。

一方、アプリ版Babyプラスのダウンロード数は、10月の月間28,465件（目標30,000件）、累計573,854件であった。

② ハーベスト（株）よりBabyプラスアプリについて「①今年のインフルエンザワクチンの接種について」（10月26日（月）PUSH配信）と「②コロナ禍でも医療機関で必要な受診をお願いします」（10月30日（金）PUSH配信）を配信するとの報告があり、小委員会内で記事内容を確認し承諾した。
[資料：広報 3-1、3-2]

③ Babyプラスアプリを利用したアンケートについて、倫理委員会から依頼のNIPTを受けられた方へのアンケートは9月15日～11月2日まで実施し回答数は目標1,000件を上回る1,200件であった。また、厚労科研の研究班（主任研究者 光田信明先生）から依頼のアンケートについて1回目は妊婦を対象に11月2日から約3ヶ月間実施し、回答の際に記入頂くメールアドレスに産後を見計らって2回目のアンケートを順次送る予定である。

(4) 女性の健康週間に関する小委員会

① 女性の健康週間 丸キャリセミナー関連について

[資料：広報 4]

工藤美樹理事「スペシャルセミナーについては、海野信也先生にリプロダクティブヘルスの総論をお願いする。その後のセッションについては内容を詰めているところである。」

② 地方学会担当市民公開講座について

[資料：広報 5]

工藤美樹理事「新型コロナウイルスの影響もあり、開催予定が9県、検討中が7県で、24県が開催予定なしとなっている。」

2) 災害対策・復興委員会（永瀬智委員長）

(1) 会議開催

第3回災害対策・復興委員会（WEB開催）	12月9日（水）【予定】
----------------------	--------------

(2) 災害時都道府県連絡委員の選任依頼について、11月4日に発送した。12月末には連絡委員のリストが完成する見込みである。

(3) 「大規模災害発生時に、被災地域の分娩取扱い施設で行うべきこと」WEBセミナーの開催企画
PEACEの施設IDを今年5月に全国の分娩施設に配布したことにより、看護スタッフ等の会員でない方も施設IDでPEACEへ情報の入力・検索が可能となった。全国の分娩施設の医師・看護スタッフ・

事務スタッフ等に向け、厚労科研小井土班「周産期・小児医療提供体制に関する研究」分担研究班と共同主催で、WEBセミナーの開催を企画したい。講演は、大規模災害に際して分娩取扱施設が準備しておくべき事項と情報発信の具体的な方法に関するものである。 [資料：災害対策1]

木村正理事長「WEBセミナーについて、うまく広報を行ってほしい。」

海野信也特任理事「後援を日本産婦人科医会、日本看護協会、日本周産期・新生児医学会に依頼しており、分娩取扱施設や看護師・助産師さんにもセミナーの内容を伝えるようにしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

3) 診療ガイドライン運営委員会 (生水真紀夫学会側調整役)

(1) 会議開催

第1回産婦人科診療ガイドライン2023一婦人科外来編作成委員会	11月15日(日)【予定】
---------------------------------	---------------

(2) 2020ガイドライン販売状況

①「産婦人科診療ガイドライン-産科編2020」頒布状況について(10月31日現在)

	10月9日常務理事会報告	～10月31日	合計
書籍版(電子版付)	9,943	583	10,526
うちダウンロード済み	1,001	1,005	2,006

②「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編2020」頒布状況について(10月31日現在)

	10月9日常務理事会	～10月31日	合計
書籍版(電子版付)	7,158	331	7,489
うちダウンロード済み	920	564	1,484

4) コンプライアンス委員会 (竹下俊行委員長) 特になし

5) サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会 (榎本隆之委員長)

(1) 会議開催

令和2年度 第3回サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会	10月27日
-------------------------------	--------

(2) 10月に新潟大学のタイムスタディの結果解析を行った。11月に委員会メンバー所属の大学を中心に9大学でタイムスタディを行う。その結果を解析して、鈴木幸雄委員を通じて厚生労働省主催の12月の「働き方改革推進検討会」で報告することを目標とする。

6) 産婦人科未来委員会 (渡利英道委員長)

(1) 会議開催

2020 年度産婦人科未来委員会 若手委員会引継ぎ	11 月 6 日
2020 年度第 3 回産婦人科未来委員会	12 月 6 日【予定】

(2) 2021 年リクルート事業について

①2021 年開催のリクルート事業（スプリングフォーラム、POP2、サマースクール）に関して、現地開催かWEB 開催かについては 12 月の産婦人科未来委員会で方針を決定する予定であるが、原則的には現地開催を行う方向で検討を進めたい。

②上記決定に従い実行委員等の募集、医会への共催依頼、各地方学会への寄附金募集などを始めたい。

(3) 若手委員について

若手委員のうち、2018 年に採用した 10 名のうち 5 名が 11 月 6 日の会議で任期を終える。COVID-19 の流行により、現地開催が不可となったリクルート事業について、WEB 形式で企画・実行されるなど、今までにはなかった状況での開催に尽力をいただいた。任期延長の 5 名も含め、その功績に感謝したい。

(4) 第 73 回学術講演会時「産婦人科未来委員会企画」について

第 73 回学術講演会の際も、第 72 回学術講演会と同様に「産婦人科未来委員会企画」を行う予定である。

7) リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会（海野信也委員長）

(1) 会議開催

第 3 回リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会	12 月 4 日【予定】
--------------------------	--------------

8) 医療安全推進委員会（杉野法広委員長） 特になし

9) 公益事業推進委員会（小林陽一委員長）

(1) 現在、寄附金を頂いた方々には企業も含め全員に「感謝状」をお送りしている。寄附金を有効に活用する為にも「感謝状」は原則廃止とし、企業については予め「寄附金申込書」に感謝状送付の可否を伺う箇所を設けたい。 [資料：公益事業 1]

青木大輔副理事長「寄附をいただいた方への受領証を出すとするれば、その際に感謝の文言は入るのではないか。」

木村正理事長「個人でも感謝状をほしいと思う方もいるかもしれないので、個人も法人と同じ扱いにしてよいのではないか。」

個人法人ともに感謝状送付の可否の確認を行うことについて特に異議はなく、全会一致で承認された。

10) 子宮頸がん検診・HPV ワクチン促進委員会（宮城悦子委員長）

(1) 本会ホームページに、「HPV ワクチンに関する厚生労働省リーフレットの改変と、自治体から対象者への個別案内について」（10月13日）、および「HPV ワクチンに関する厚生労働省から自治体への通達内容について（重要）」（10月15日）を掲載した。

(2) 「子宮頸がん と HPV ワクチンに関する正しい理解のために」のホームページ更新について

Part 3 およびそのサマリー（ショートバージョン）を準備中である。通信により理事会の承認を得て、早期に公表したい。

[資料：子宮頸がん1]

宮城悦子委員長「ホームページ掲載について、最初は9価ワクチンについての解説を加える予定だったが、スウェーデンで浸潤がんが劇的に減ったという論文が出たのでこれも盛り込み、厚生労働省の個別通知は行うという動きも取り込むことにした。業者への図表の発注は終わっており、最終版について通信で先生方のご意見をいただいた上でホームページに掲載してよいかをお諮りしたい。」

木村正理事長「9価ワクチンはまだ打てない状況だが、打てるようになるまで待とう、と考える人もいる。4価でも効果はあり、そのような動きにならないように、表現を工夫してほしい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

Ⅲ. その他

藤井知行監事「もし東京オリンピック2020が中止となった場合でも、第74回学術講演会は現在の予定通り、8月に開催するということがよいか。」

加藤聖子第74回学術集會長「その通りである。また情報が入ったらお伝えしたい。」

以上